

ヘアリーベッチを活用した 京都特産豆類安定生産技術の開発

(農林センター)

主 旨

- 豆類の安定生産には肥料・堆肥散布が必要だが、労力負担が大きい
- そのため、緑肥のヘアリーベッチ (HV)を肥料・堆肥の代わりとして活用し、地力の維持・回復と土壌の排水性を改善し、慣行と同等の収量を確保

肥料散布30kg/10a
(4500円、30分)
堆肥散布1.5t/10a
(9000円、2時間)



種子散布4kg/10a
(5600円、10分)
散布労力・コストの軽減

ヘアリーベッチの
すき込み(30分)

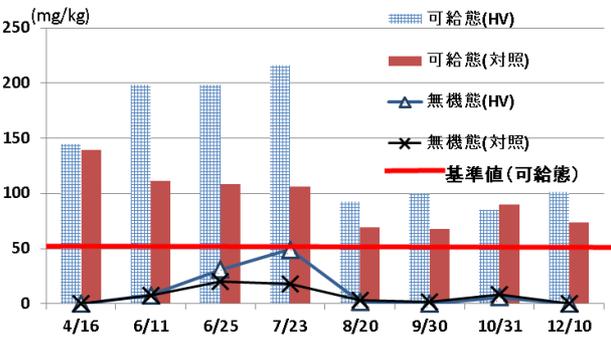
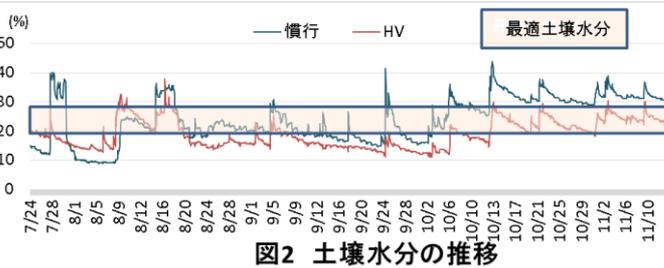


表1 黒大豆・小豆の収量調査結果(亀岡)

区	黒大豆(kg/10a)	小豆(kg/10a)
HVすき込み	224.4 ± 45.3	164.8 ± 7.3
慣行	238.4 ± 51.5	162.9 ± 8.2

表中の数値は平均値±標準偏差

HV栽培のポイントと留意点 (マニュアル)



研究成果

- 北部で10月、南部で10～3月に播種 (小豆栽培予定ほ場は5月上旬頃までに播種) すれば、緑肥が1.5～3t、窒素が10kg程度確保でき、黒大豆・小豆の収量が慣行と同等 (表1)
- 窒素やリン酸等の土壌養分が確保でき、地力が回復 (図1)
- HVをすき込んだほ場は、土壌の排水性が改善 (図2)

普及に移す具体的ポイント

- これまでの肥料と堆肥散布の代替技術として有望です。
- 環境負荷の軽減と環境保全につながり、景観植物としても利用できます。